

胃がん予防ニュース

山内村役場 国立がんセンター
横手保健所 平鹿総合病院

山内村の皆様におかれましては、胃がん予防研究にご理解、ご協力を頂いておりますことを深く感謝しております。胃がんは全世界で年間約70万人が罹っており、有効な予防法の開発が望まれております。山内村では、平成7年度の住民健診の際に血液中のペプシノーゲンという物質を測定し、胃がんになりやすい方を選び出し、その中の同意を頂いた方に、胃がん予防の可能性のあるビタミン剤を服用して頂いております。途中、内容の変更を余儀なくされ、ご心配をおかけしましたが、現在も約300名の皆様にご参加頂いております。

この度、村民の皆様からの胃がんの発生や死亡を少しでも減らしたいと考え、ニュースレターを発行し、研究の進行状況を報告すると共に、胃がん予防のための様々な情報を提供させて頂くことにいたしました。ニュースレターの内容をご理解頂き、胃がん予防のための実践を行って頂けることを願ってやみません。今後もニュースレターを継続して発行してゆきたいと考えております。

平成9年 1月

国立がんセンター 臨床疫学研究部長

津金 昌一郎

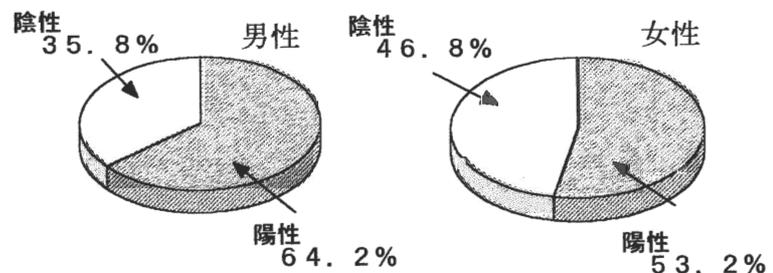
1. 村民の半数以上が 慢性萎縮性胃炎

山内村における慢性萎縮性胃炎の人の割合

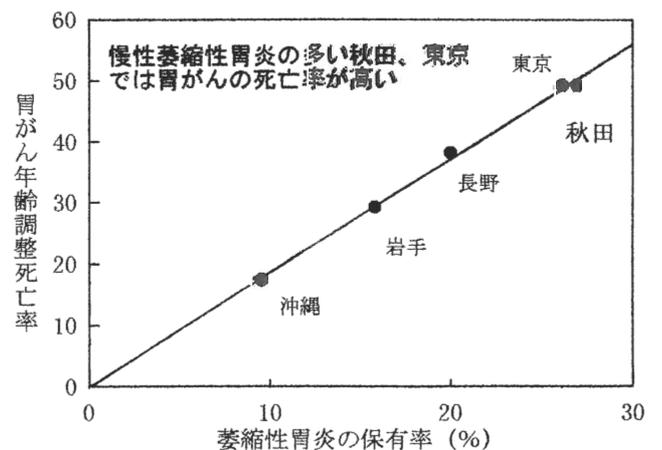
平成7年度の村の健診を受けた40～69才の1214名の方にご協力をいただき、血液中のペプシノーゲンの量を調べていただきました。

その結果、半数以上にあたる635名の方がペプシノーゲンが「陽性」であり、「慢性萎縮性胃炎」という胃がんになりやすい状態であることがわかりました。

秋田県は日本の中でも胃がんの大変多い所ですが、秋田の人の血液を調べると、胃がんの少ない沖縄や岩手の人に比べて、慢性萎縮性胃炎にかかっている人が多くなっています。



慢性萎縮性胃炎と胃がんの死亡率との関連



2. 慢性萎縮性胃炎は胃がんの予備軍

「慢性萎縮性胃炎」とは

胃の粘膜は誰でも年齢と共に次第にうすくなっていきますが、普通の人よりもこの度合いが強い状態を「慢性萎縮性胃炎」といいます。

一種の老化現象なので、特別な症状はないのですが、将来、胃がんにかかる危険性がそうでない人に比べて数倍高いといわれています。

胃の粘膜が正常な場合は・・・

ガン細胞ができて、胃の粘膜に定着しにくいいため、ガンになりにくいといわれています。



胃の粘膜の萎縮がすすむと・・・

胃の正常な働きが妨げられる場合もありますが、ガン細胞が胃の粘膜に定着しやすくなるため、ガンになりやすいといわれています。



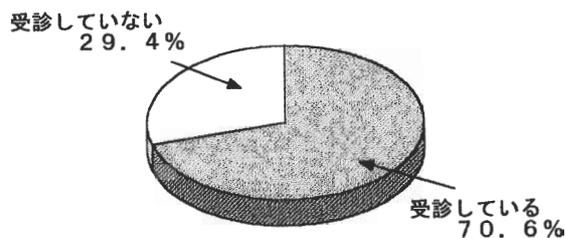
3. 胃がん検診を定期的に受けましょう

慢性萎縮性胃炎の人は、胃がんになる確率が高いので、食生活に気をつけながら胃がんにならないように努めると同時に、検診を受けて、早期に発見することを心がける必要があります。

今年度は慢性萎縮性胃炎と診断された方635名中29%にあたる187名の方が胃がん検診を受診されていませんでした。

職場での検診を受けた方や、医療機関などで直接胃カメラなどを受けた場合は問題ありませんが、もし、全く受けていないのであれば、ぜひ、胃がん検診をうけてください。

今年度の胃の検診の受診者の割合 (ペプシノーゲン陽性の人)



ペプシノーゲン検査で「陰性」の人は・・・

胃の粘膜は正常のようですが、「胃がんにならない」ということではありませんので、定期的に胃がん検診を受けましょう！！